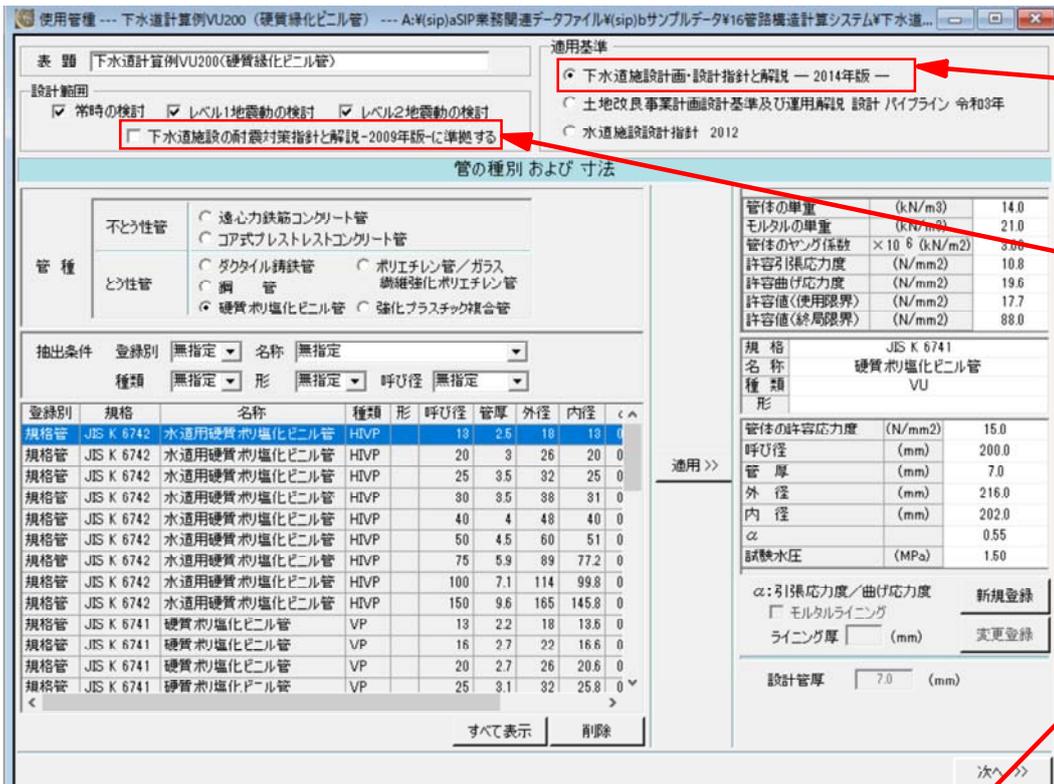


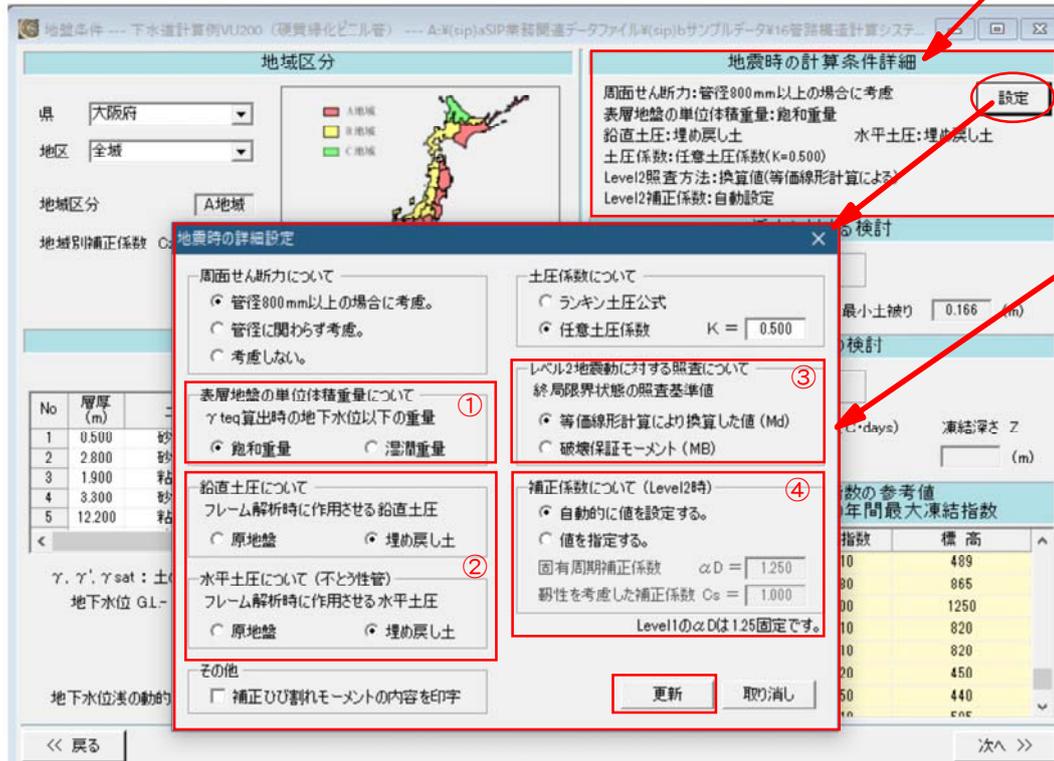
管路構造計算システムVer3.2（下水道施設指針2014/計算例2015）対応版



適用基準指針を「2014年度版」へ改定年度を変更した。

従来の計算を行う場合は「2009年版」を指定します。

下水道指針2014年度の計算を行いたい場合は、本項目で「設定」ボタンをクリック。適用基準の概要を表記



「設定」ボタンをクリックすると下水道指針2014年度版に於ける計算項目の指定が可能。

基本的に下水道指針に準拠した内容でデフォルト指定されていますが、変更も可能。

<解説>

- ①表層地盤の地下水位以下の重量について「飽和重量」か「湿潤重量」の指定が可能。
- ②鉛直・水平土圧について「現地盤」または「埋め戻し土」の適用が可能。また、地震時常時荷重検討時の項目の「土質区分」について「埋め戻し土」または「現地盤」かの土質名の表記及び単重の適用が可能。
- ③レベル2に検討に於ける「終局限界状態の照査基準値」について算出方法を指定できます。計算例（コンクリート管）では、「等価線形計算により換算した破壊保証モーメント」としています。
- ④補正係数（ αD ）は、従来レベル1及びレベル2も「1.25」としていましたが、2014年度版では「2.0」との記載もあり「自動的に値を設定する。」をデフォルトとして手入力指定も可能です。